

製品名: IKK β (リン酸化 Tyr199) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04829**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	85kDa

抗原情報

遺伝子名	IKBKB
別名	IKBKB; IKKB; Inhibitor of nuclear factor kappa-B kinase subunit beta; I-kappa-B-kinase beta; IKK-B; IKK-beta; Ikbkb; I-kappa-B kinase 2; IKK2; Nuclear factor NF-kappa-B inhibitor kinase beta; NFKBIKB
遺伝子 ID	3551.0
SwissProt ID	O14920
免疫原	抗血清は、ヒト IKK- β の Tyr199 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 166-215

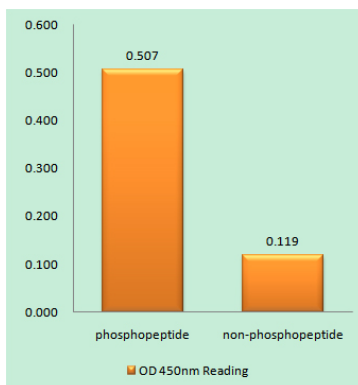
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、阻害剤/NF-κB 複合体中の阻害剤をリン酸化することで、阻害剤の解離と NF-κB の活性化を引き起こします。コードされるタンパク質自体は、タンパク質複合体中に存在します。この遺伝子には、タンパク質をコードするものもそうでないものも含め、複数の転写産物バリエーションがみつかっています。[RefSeq 提供、2011 年 9 月]、触媒活性: ATP + [I-κB タンパク質] = ADP + [I-κB リン酸化タンパク質]、機能: NF-κB 活性化の従来の経路において IKK 複合体の一部として機能し、NF-κB の阻害剤をリン酸化することで、阻害剤/NF-κB 複合体の解離を誘導し、最終的に阻害剤を分解します。NCOA3 もリン酸化します。、PTM: 「Ser-163」のユビキチン化は、C 末端セリン残基のリン酸化を調節します。、PTM: サイトカイン刺激を受けると、MEKK1 および / または MAP3K14/NIK によって Ser-177 および Ser-181 がリン酸化され、活性が増強されます。活性化されると、C 末端セリンクラスターが自己リン酸化され、活性が低下し、炎症反応の持続的な活性化が抑制されます。、PTM: Yersinia yopJ は Ser/Thr 残基をアセチル化し、リン酸化と活性化を阻害することで、I-κB シグナル伝達経路を阻害します。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。I-κB キナーゼサブファミリー。、類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。、サブユニット: CHUK、IKKBK、および IKBK からの I-κB キナーゼ (IKK) コア複合体の構成要素。おそらく 4 つの α/CHUK-β/IKKBK 二量体が 4 つの γ/IKBK サブユニットと関連している。IKK コア複合体は、調節タンパク質またはアダプタータンパク質と結合して IKK シグナルソームホロ複合体を形成すると考えられる。NCOA2、NCOA3、CHUK/IKKA、IKKBK、IKBK、および CREBBP からの複合体の一部。少なくとも CHUK/IKKA、IKKBK、NFKBIA、RELA、IKBKAP、および MAP3K14 からの 70 ~ 90 kDa の複合体の一部。PRKCZ または PRKCI を介して SQSTM1 と相互作用する。IKKBK、PRKCI、TRAF6 と NGF 誘導複合体を形成する。MAVS/IPS1 と相互作用する可能性がある。NALP2 と相互作用する。TICAM1 と相互作用する。Yersinia yopJ と相互作用する。FAF1 と相互作用し、IKK 複合体の形成を阻害する。ATM と相互作用する。TANK、IKKBK、IKBK からの三元複合体の一部である。NIBP と相互作用し、直接的な相互作用を示す。、組織特異性: 心臓、胎盤、骨格筋、腎臓、膵臓、脾臓、胸腺、前立腺、精巣、末梢血で高発現する。、

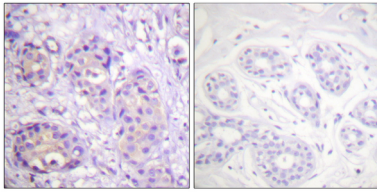
研究分野

MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein;ケモカイン;アポトーシス抑制;ミトコンドリアアポトーシス;アポトーシスの概要;Toll_Like;NOD 様受容体;RIG-I 様受容体;細胞質 DNA 感知経路;T 細胞受容体;B 細胞抗原;神経栄養因子;インスリン受容体;アディポサイトカイン;2 型糖尿病;ヘリコバクター ピロリ感染における上皮細胞シグナル伝達;がんにおける経路;膵臓がん;前立腺がん;慢性骨髄性白血病;急性骨髄性白血病;小細胞肺がん;

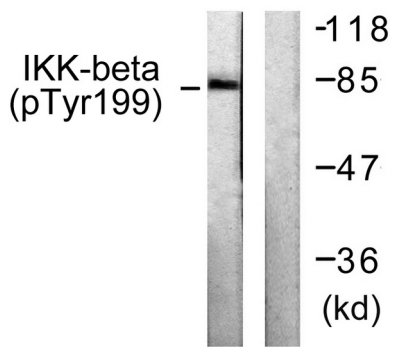
画像データ



IKK-beta (リン酸化 Tyr199) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



IKK-beta (リン酸化 Tyr199) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



TNF- α 20 ng/ml + カリキュリン A 50 nM 5' で処理した HeLa 細胞ライセートの IKK- β (リン酸化 Tyr199) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。